

平成25年度後期学校評価結果公表

○評価結果の考察（保護者、児童のアンケート結果 学校運営協議会の話し合いより）

保護者の学校評価の項目の実現度が低く、重要度の高い項目（重点課題）が大幅に増えている（6項目⇒11項目）。新たに重点課題となった項目は、「授業が楽しくてわかりやすいこと」「体のことや食べることの学習をすること」「将来の夢や仕事について話すこと」「家での役割（お手伝い）をすること」「テレビやテレビゲームの時間を決めるここと」「早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣の定着」である。良い方向に変化した項目は「親と子の会話など親子の時間をとること」の1項目。前期と同じく重点課題だった項目は、「ていねいな言葉で話すこと」「子どもが進んでいきたいこと」「学力の基礎・基本が身につくこと」「家庭で学習すること」「社会や学校でのきまりについて話すこと」の5項目である。

このうち「将来の夢や仕事について話すこと」「家での役割（お手伝い）をすること」「テレビやテレビゲームの時間を決めるここと」については、重要度が増した項目なので、保護者の意識として「必要だ」と意識が高まった結果とみることができるので実現度も今後改善してくるのではないかと期待できる。

実現度の下がった項目が3項目「授業が楽しくてわかりやすい」「体のことや食べることの学習をすること」「早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣の定着」。これに変化しなかった項目も含めて注視していく必要がある。

分析的にみると、授業や学力について【授業・学力】、生活習慣とその教育について【生活習慣】、言葉づかいやあいさつなどの規範意識について【規範意識】が重要だが実現できていないとの評価がなされていると見ることができる。

この3点について子どもの評価を見てみると1点目の【授業・学力】については、「授業中話をしっかり聞くこと」「授業が楽しくてわかりやすいこと」「授業中進んで発表すること」の実現度が下がっている。【生活習慣】については「早寝早起きについては」実現度が低いままだが「朝ごはんをしっかり食べること」については実現度が高い状態を保っているので、「早寝・早起き」ができていないことが、保護者の評価を下げたことがうかがえる。【規範意識】についても「学校や学級のルールをまもること」は前期の時と同様実現度が低い、また、前期実現度が高かった「ていねいな言葉で話す」も実現度が下がった状態にある。

後期のアンケートの項目ごとの【授業・学力】の実現度を見てみても、「授業中話をしっかり聞くこと」「授業中進んで発表すること」「授業が楽しくてわかりやすいこと」の実現度が低いことが気になる。「授業中話をしっかり聞くこと」については、授業中に「話を聞きなさい」と言われているので、意識が高くなり、「まだこれではダメだ。」と子どもが感じているのではないかと考えることができる。しかし、「授業が楽しくてわかりやすいこと」は明らかに授業に対する評価であり、「授業中進んで発表する」は重要度も下がっていて、やはり、子どもが自分の意見を自由に話せる活気のある授業づくりが十分ではないと考えて、授業の改善が必要だと評価しなければならない。

【生活習慣】の児童の実現度を見ると「朝ごはんをしっかり食べること」以外の、「早寝・早起きをすること」「家の役割（お手伝い）をすること」「すすんでいさつをすること」は十分できていない状態にはない。保護者の実現度でも、「子どもが進んでいさつをすること」「家の役割（お手伝い）をすること」「テレビやテレビゲームの時間をきめること」「早寝早起き…生活習慣の定着」が十分でないと評価している。「何度も言つても子どもが言うことを聞かない。」との思いが強いのか、もっとこうなってほしいとの願望が強いのか。家のジレンマがうかがえる結果といえる。

今回の調査で、保護者と児童の評価が一致していることが見て取れる。そして重要度の高まりとともに実現度がさがっている様子もうかがえる。重要度という“期待値”が高まるとおのずとその実現度は下がってしまう現実がある。だからといって必ずしも“悪くなった”と評価してしまうのが正しいのだろうか。重要だという認識が上がったことをむしろプラスととらえ、今後の成長の土台ができつつあると捉えることもできるのではないだろうか。ただ、【授業・学力】、【生活習慣】、【規範意識】どれもが子どもだけで何とかなるものではない。家庭と学校が協力して子どもたちにつけていかなければならないものである。また、アンケートは意識の調査でもあるので、どれぐらいできれば良いとするのかの基準も示していく必要もある。子どもにとっても大人にとっても「できるようになった。」「よくがんばっている。」と捉えられるようになる方が、次への意欲につながり「自分から」よりよくなっていく力につながる。そのためにも大人が子どもについて学び、保護者同士、人生の先輩、または学校・識者と話し合い、高め合っていくことが必要となる。そう考えると、「参観授業や学校行事に参加すること」、「地域の行事にできるだけ参加すること」「PTAの行事にできるだけ参加すること」が低いのでは、学ぶ機会が制限されいつまでも悪循環の中に入ったままとなってしまうことが懸念される。学校側は、地域・家庭をまきこんで学ぶ機会の大切さを様々な機会をとらえて呼びかけていくことが急務と捉えていくことが必要なのだと考える。

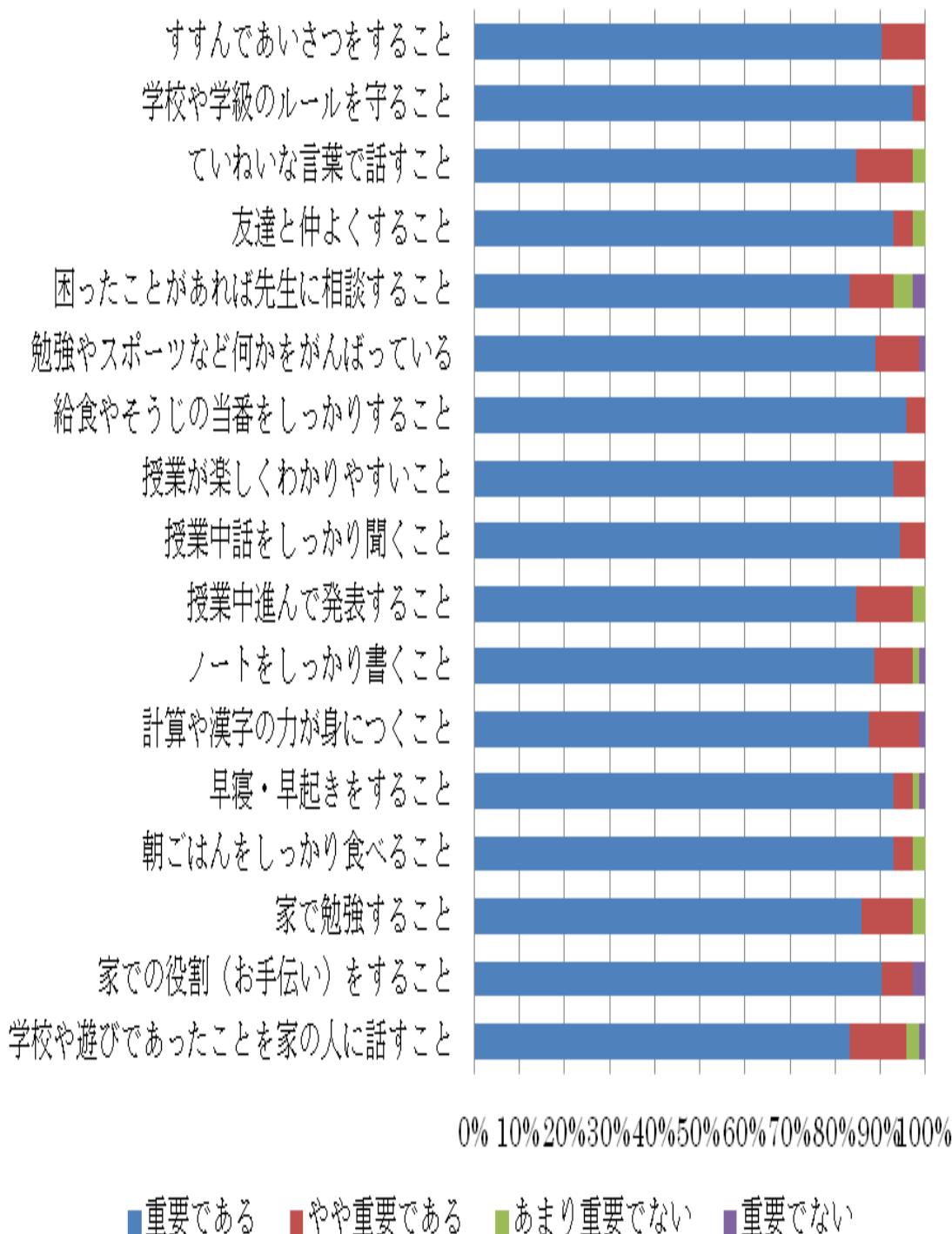
【学校運営協議会理事会での話し合いより】

実現度が下がっている項目が多いようだが、言葉づかいは良くなっている児童が多くみられる。学校としても言葉づかいについては、折に触れて指導をしているので少しずつ敬語など丁寧な言葉を使わなければならぬと思うようになってきている。このように子どもたちの意識が上がっていることは今後の成長を期待できるので救われる。しつけに関わることは家庭の働きによることが大きいので、家庭の働きかけを学ぶ機会である地域やPTAとの関わりを重要と感じていないことが気になる。保護者同士の関わりや地域とのかかわりの中で保護者の意識も高まっていかなければならぬ。そのように考えればPTAや地域の活動への参加やボランティアの募集などは集まりが多くなくとも根気よく働きかけていくことは大切である。

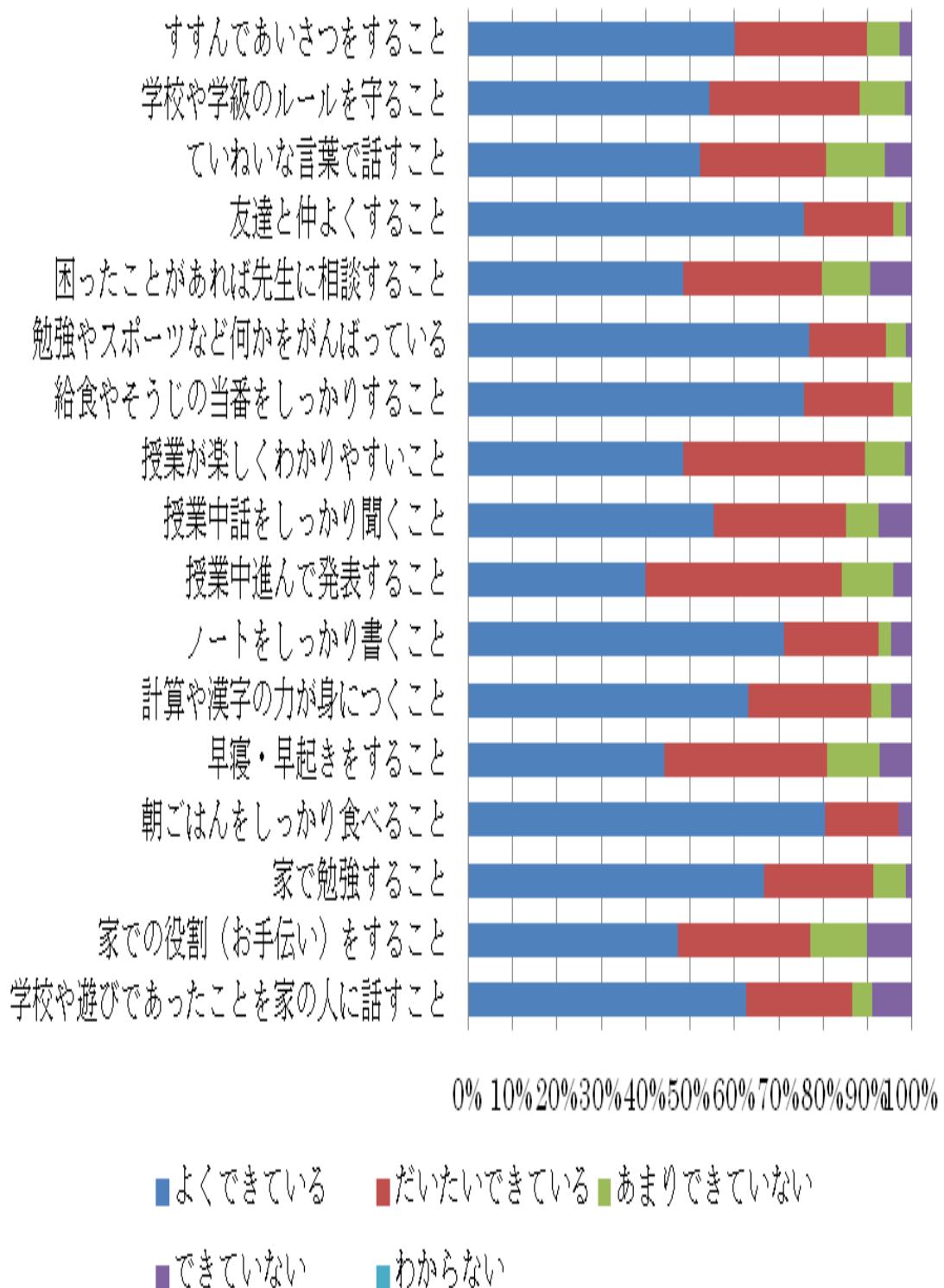
また、「困ったことがあれば先生に相談すること」「授業が楽しくてわかりやすいこと」については子どもの同志の関係や発達段階によるところもあるが、いじめられたり勉強がわからなかつたりして困っている児童がいないかしっかりアンテナをはって一人一人を大切にする教育をさらに進めほしい。

低学年アンケート結果

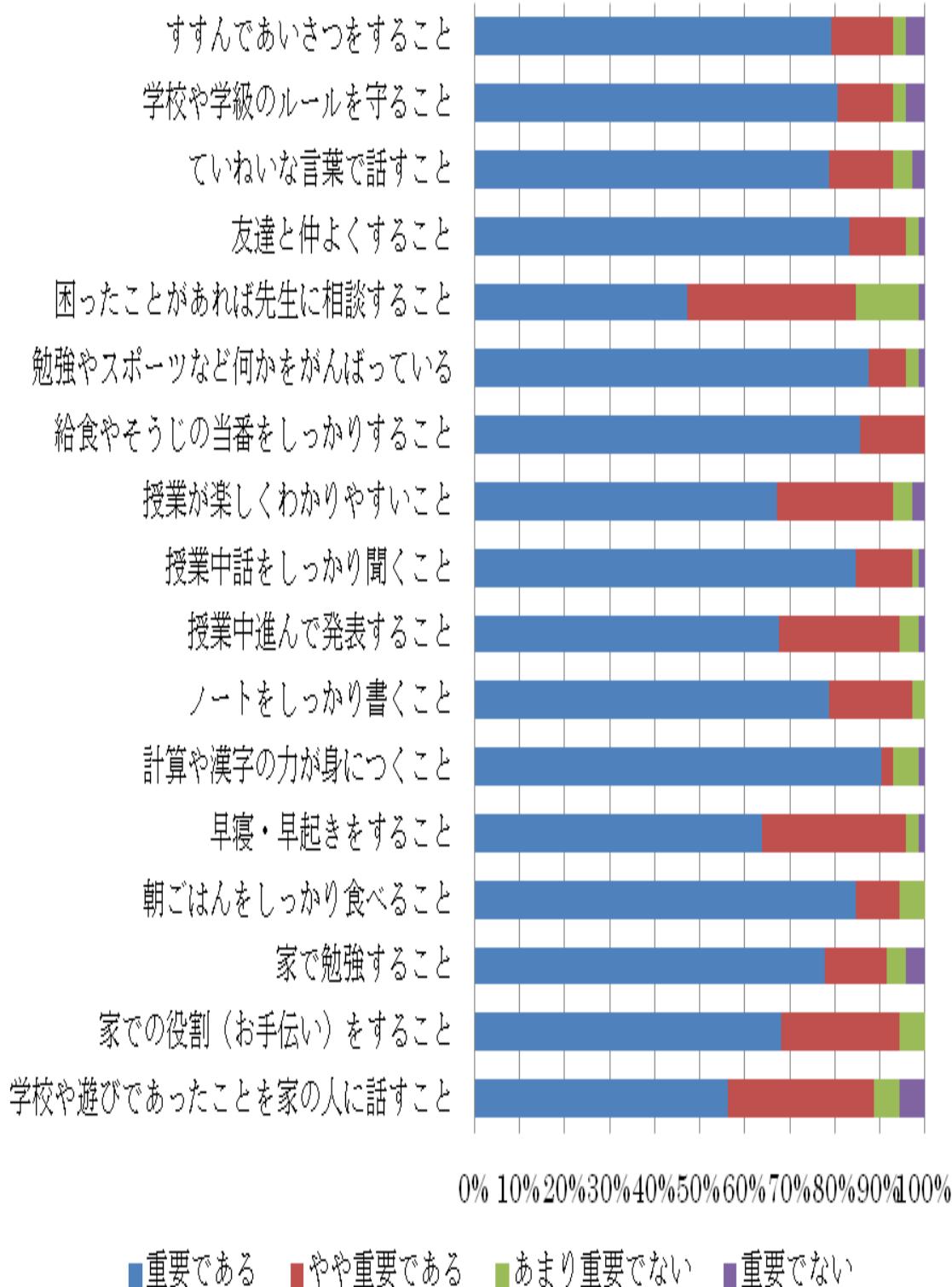
H25後期低学年重要度



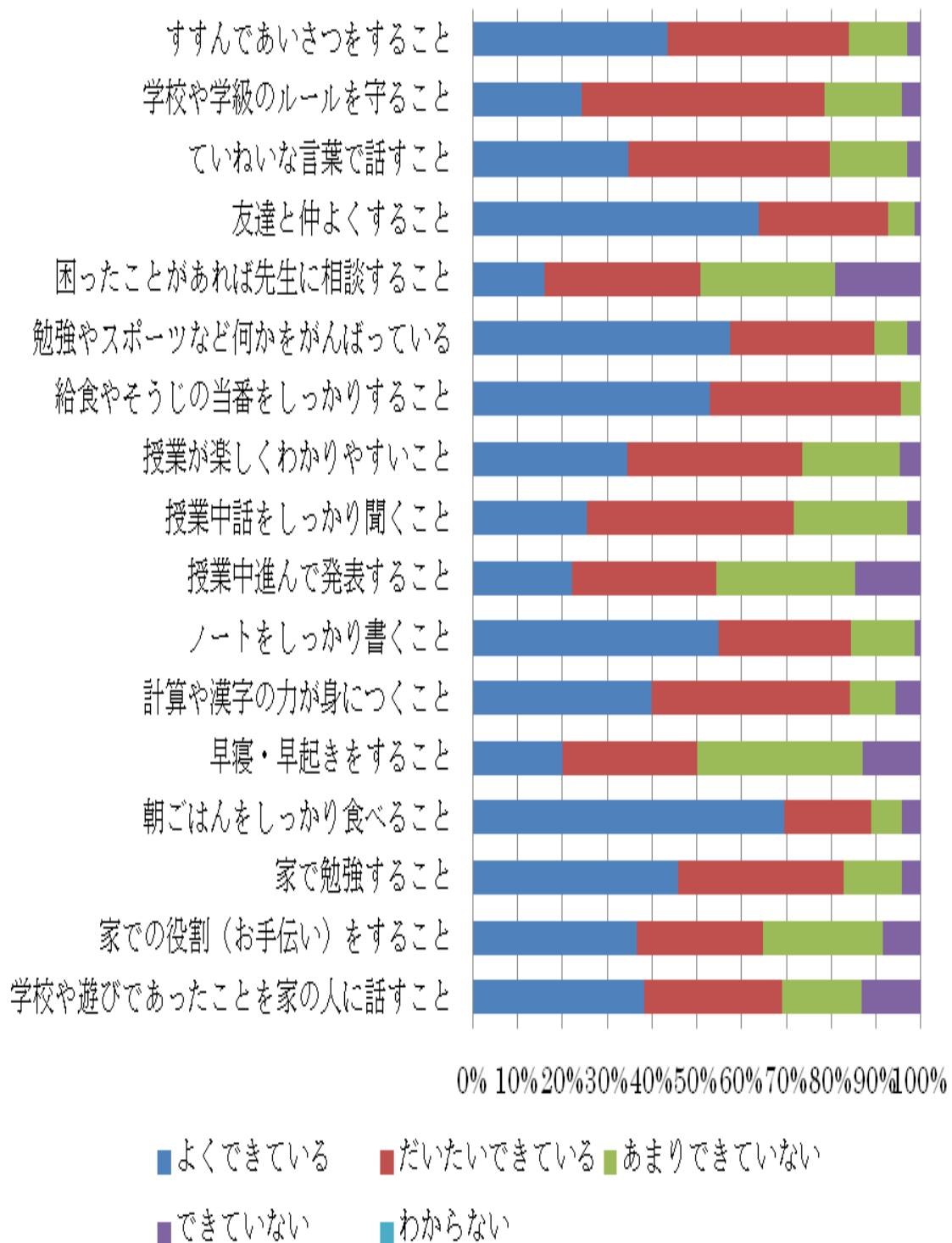
H25後期低学年実現度

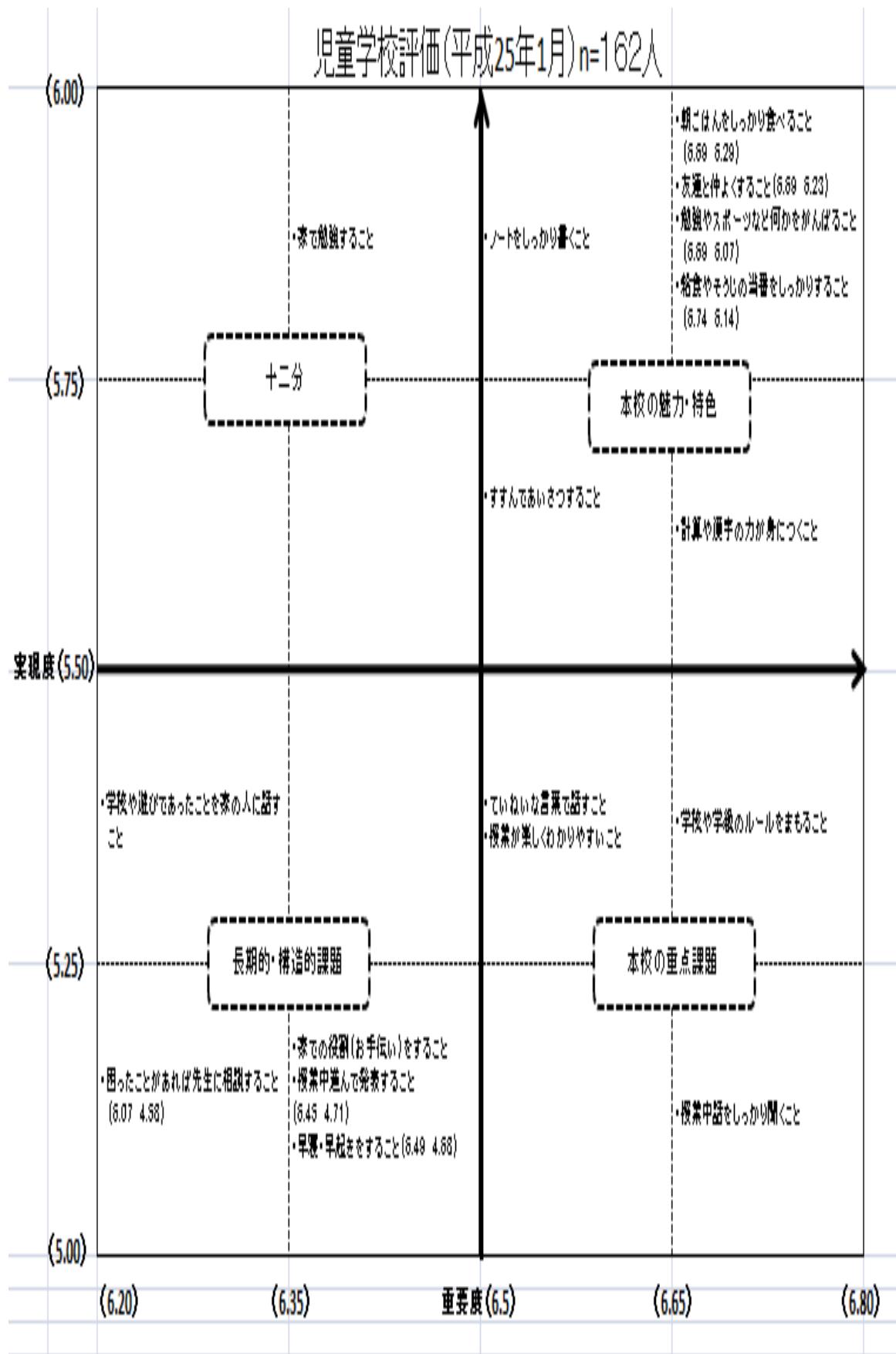


H25後期高学年重要度



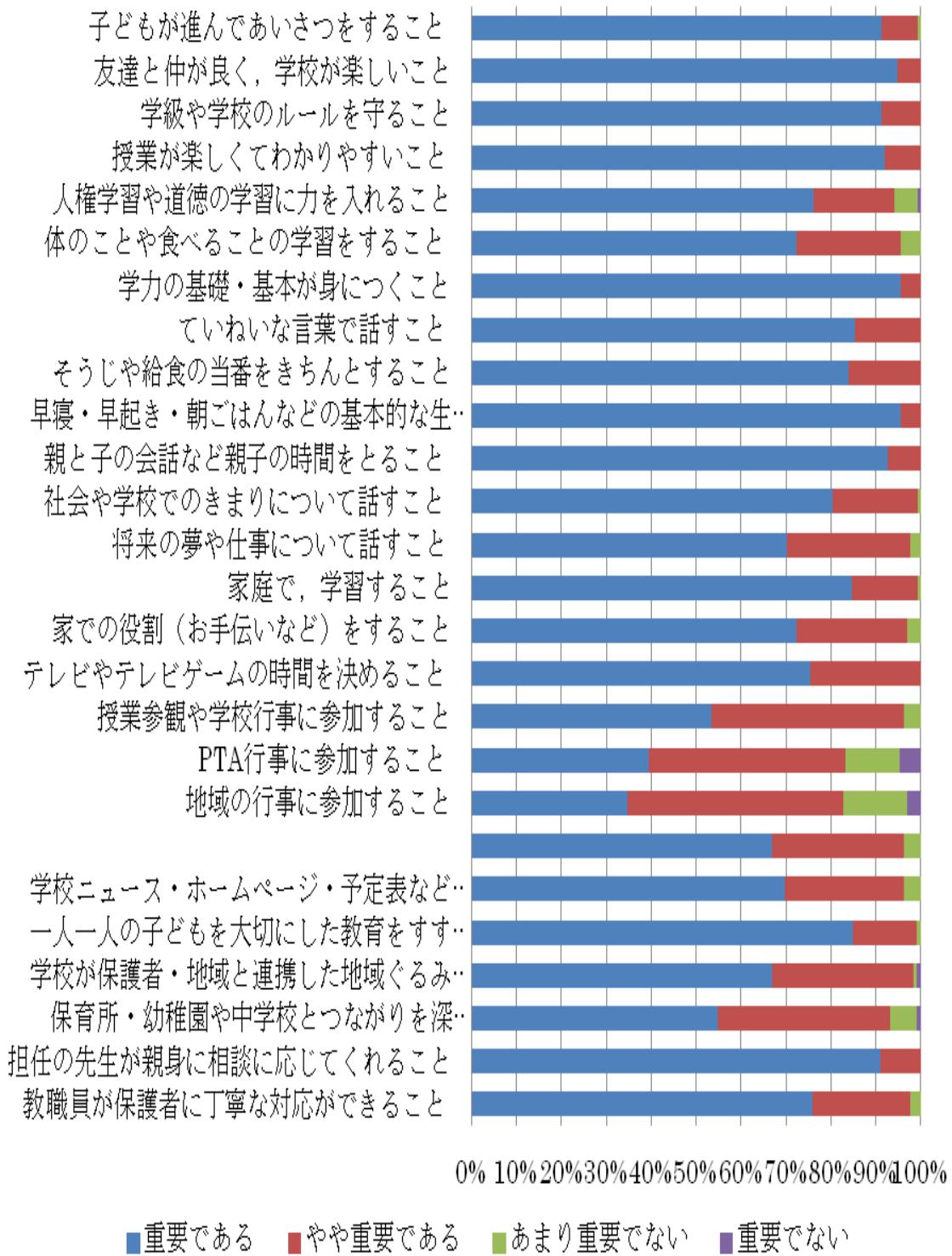
H25後期高学年実現度



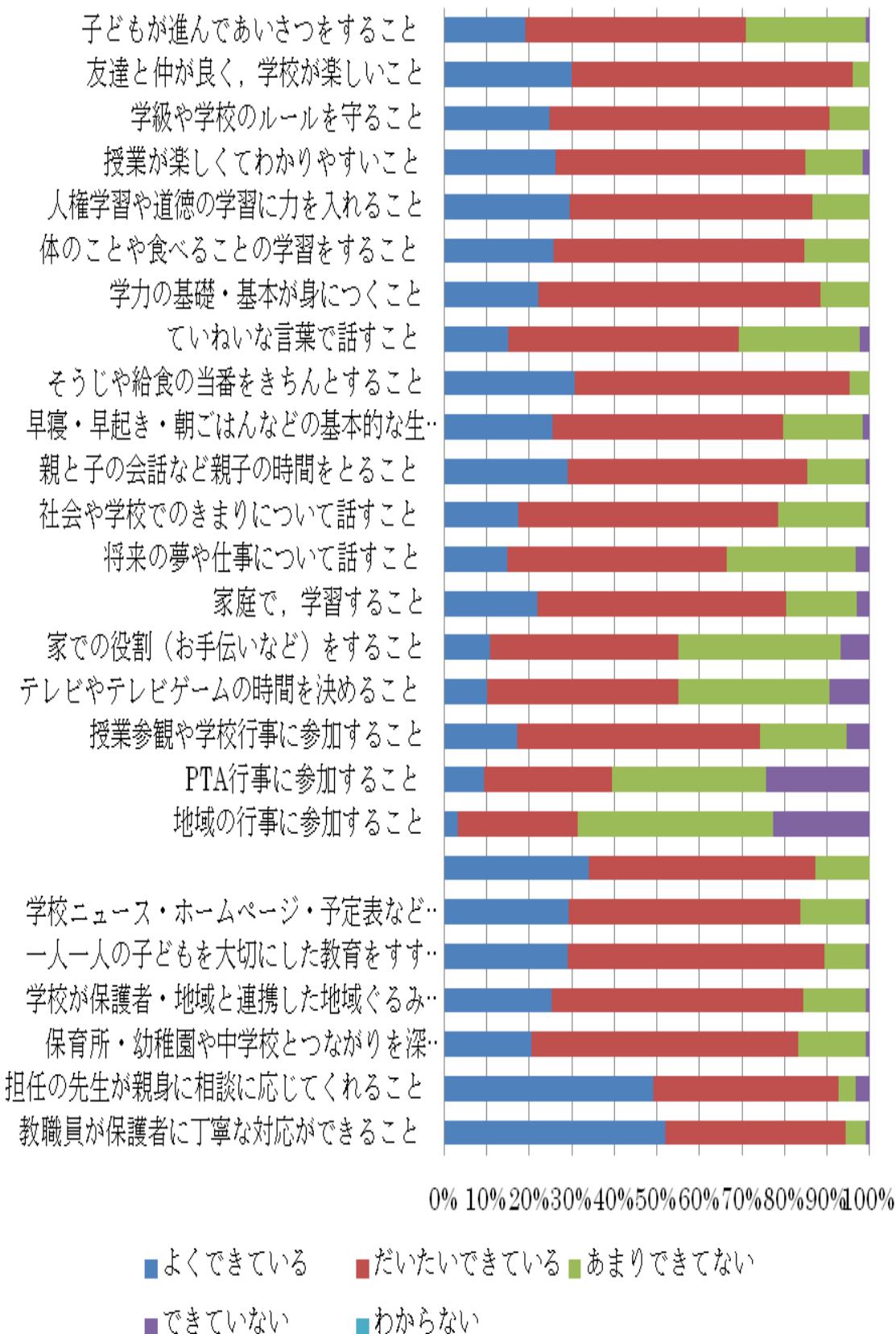


保護者アンケート結果

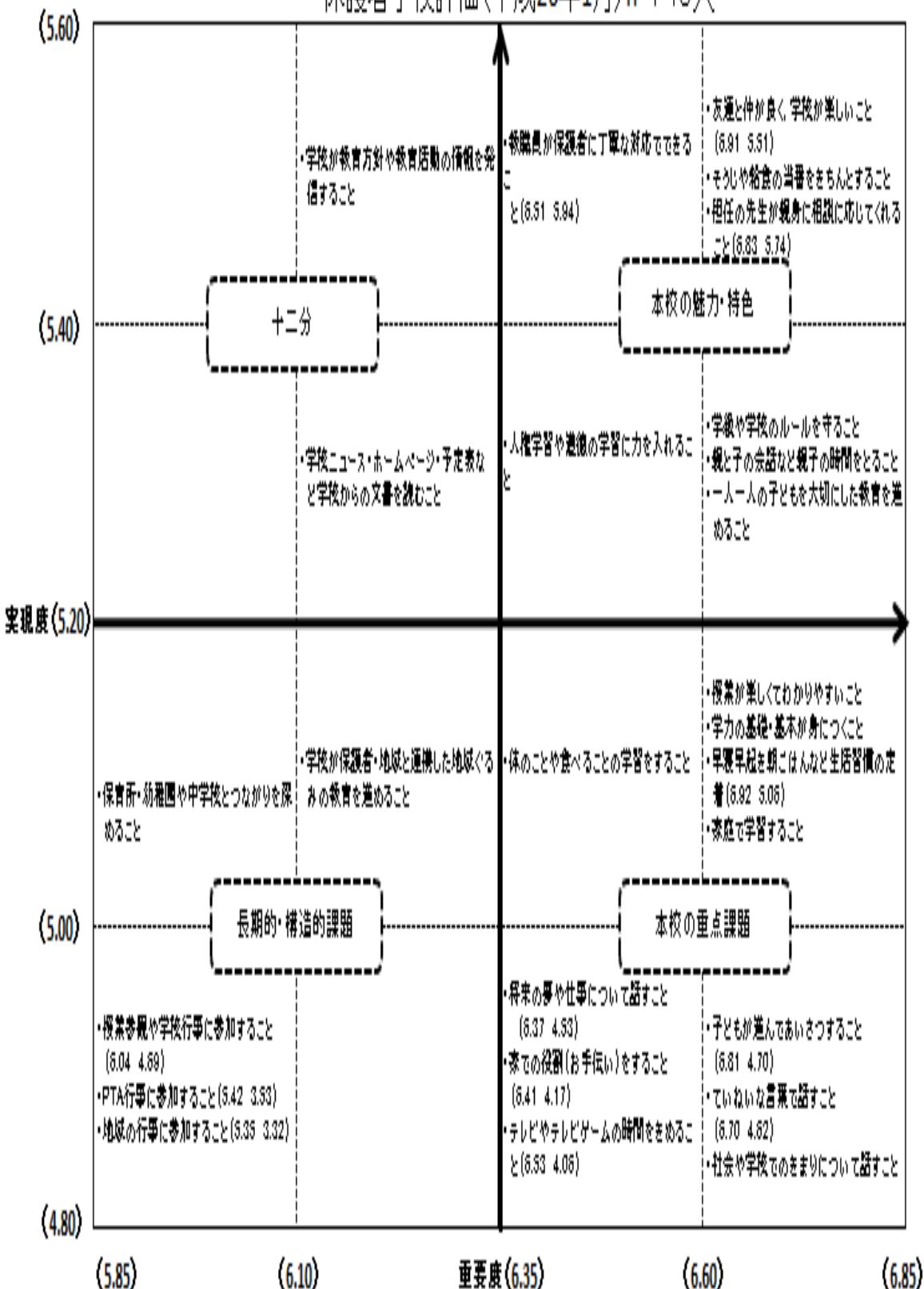
H25後期保護者重要度



H25後期保護者実現度



保護者学校評価(平成26年1月) n=149人



学校評価 H25後期 保護者自由記述欄

- ・運動会の時炎天下の下、子どもたちの座席位置にテントがあった方が良かったのではないか。
- ・PTAはできる人がやればいい。
- ・兄を含めると9年間養正小学校に大変お世話になりました。ささいな事でも電話した時に丁寧に対応してくださり、本当にありがとうございました。残りわずかになりましたが、よろしくお願いいいたします。
- ・先生方も気を使っていただいてますが、何事もはつきり「こうしたらしいです。」「こうしてください」とはつきり言ってください。フワーと言われるとどうしたらしいか。
- ・6年間本当にありがとうございました。
- ・毎日楽しく学校に行ってます。
- ・いつもありがとうございます。
- ・小学生の時の楽しい思い出、いろいろな出来事が多くあるほど、大人になってからの心の栄養になっていたと感じます。これから成長のためにもいろいろな大人と接し、いろいろな出来事に対していくことが子どもたちの助けになると思い、心して子どもたちに接していくたく思います。
- ・先生方の保護者に対する対応は先生によって違うし、保護者によっても違うと思います。体や健康のことなど必要な連絡はきちんとしていただきたいです。
- ・授業がわかりやすく楽しいと喜んでいました。その他の指導もメリハリがあり怒る時ほめる時などすごく納得がいっているようです。今後もよろしくお願ひします。
- ・地域の連携、PTAや地域行事への保護者の参加や参加意識が低すぎる。
- ・学校行事を何となく行うのではなく、行事を行う目的を学校でしっかりと決めていただき、先生方が共通の認識をもって子どもたちの指導にあたっていただければありがたいです。行事を通して子どもたちが人間として少しでも成長できるようにご指導をよろしくお願ひします。
- ・児童数が少ないのでアットホームな感じで安心して学校に行かせられます。
- ・掃除道具（校内のほうき）がかなり傷んでいる印象がありますが、古くなったら新しいものにきちんと交換されているのでしょうか。
- ・先生方にはいつもご親切にしていただきありがとうございます。子どもが元気に通学できるのも先生方のおかげです。